

令和6年度 第1回視聴覚センター運営委員会 摘録

日 時 令和6年7月22日（月） 午後3時～午後4時20分

場 所 京都市生涯学習総合センター 3階 会議室

出席委員 久保 泰雄 委員
佐藤 卓也 委員
豊田まゆみ 委員
日吉 肇 委員
船津 雄貴 委員 五十音順

欠席委員 金桝 純子 委員
富山 沙織 委員
日比野和雅 委員 五十音順

傍 聴 人 なし

1 開会

- (1) 酒崎所長の挨拶
- (2) 摘録署名人に日吉委員長を選出

2 議事

- (1) 令和5年度視聴覚センター事業実施状況
「令和5年度視聴覚センター事業実施状況」の説明を行った。
- (2) 令和6年度視聴覚センター事業計画
「令和6年度視聴覚センター事業計画」の説明を行った。
- (3) 全国の視聴覚センター等の現況報告
「全国の視聴覚センター等の現況報告」の説明を行った。

上記(1)～(3)の議事に関する説明を基に意見交換を行った。

[委員からの主な質問や意見など] (○は委員、・は事務局)

- バリアフリー映画会やアスニーシネマの上映作品の字幕について。
- ・ 通常、京都アスニーでは、洋画は日本語の字幕付きで上映中。また、バリアフリー映画は、日本映画でも、日本語の字幕とともに、場面の音声解説も収録され

ている。

- 西京区からアスニーは遠いので視聴覚機器や教材を借りに来ることは困難。
 - ・ 区役所や自治会と連携されて地元行事等が企画される場合は、アスニーが出張上映するようなイメージも必要に応じて検討が必要。
- バリアフリー映画会は、とても良い取組。本年度の休止は残念。同じような取組をしている団体あればよいが、前向きな検討をお願いしたい。
 - ・ 支援企業が作成費用を負担できなくなっている。そのため利用する側（アスニー）へ高額な費用負担が転嫁されることとなる。本年度は、既存の字幕付きのシネマにおいて、配慮できる部分を増やす形で対応中。
- 中学生の人権学習の中で、バリアフリー映画をアスニーで借りて、生徒とともに観る機会をもっていたが最近は減少。
- 貸出しの多い作品ランキングの表示などがあれば、上位の作品を観てみようと思えるが、現在は逆に作品数が多すぎて選びにくい。
- 視聴覚センターのホームページは見やすいように改良した方がよい。

視聴覚教材（ライブラリー）のニーズについて、意見交換を行った。

- 最近は学校内で VHS の教材を見た覚えがなく、視聴覚室に再生する機器があるかどうかもわからない状況。
- 放送教材は「NHK for School」が利用可能で、ネットを通して利用できるようになった。
- 人権啓発映画の整備をどう進めていくか。クラウド利用して映像配信が可能な昨今、広域で利用できる仕組みがあれば、積極的に取り入れてはどうか。
- 経済産業省の「未来の教室」では、民間の教材が増加。視聴覚センターがどういう教材を準備していくか、学校の意見も聞きながら、配信の研究も進めていく必要がある。
- VHS のライブラリーに関しては、現在の人権教育に資する内容であるかなど、精査も必要。精査の結果、価値があるものは今後も保有・PR してはどうか。
 - ・ 16 ミリ映写機や 16 ミリフィルムなど歴史的価値はあるかも知れないが、受講者数が極端に少ないこと、また費用対効果も考慮し、本年度の講習会自体は一旦休止して様子を見る。

デジタルカメラ、ビデオカメラ等のニーズについて意見交換を行った。

- デジタルカメラ（34 台保有）の学校からのニーズの再確認。
 - ・ 今年度、貸出しを断った学校もあり、一定のニーズはあると認識。
 - ・ デジカメが販売されなくなってきた中、視聴覚センターの全体予算で削れるところを削り、生み出した財源で代替品となるタブレット等の購入ができないか検

討していきたい。

- 液晶プロジェクターは各校にあるが、導入されて 10 年以上経過。明るさが今の時代に合わない。視聴覚センターに最新の機種があれば借りることができると思う。
- 地元の自治会や各種団体が学校に対して液晶プロジェクターの貸出しを依頼してくることがよくある。アスニーも学校だけでなく、地元へプロジェクターを積極的に貸し出しできるようにしてはどうか。

閉 会